

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D そう思わない

精華幼稚園教育目標		ひとり立ちする子	自己評価	学校関係者評価委員会から	
			評価	意見	
三つの重点	1 経験・体験の幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校以降の学校教育を見据え、追求力、問題解決力の源を築こうとしている。幼児教育に対する幼稚園の基本姿勢が伺える。 ・B という評価は、先生たちが目標をもっと高いところに置いているからだろう。子どもたちは十分に充足感に満ちた顔をしている。 ・元気で明るい子が多い。 ・子どもたちは、私たちがのような突然の訪問者に対しても親近感を持って接してくれる。話しかけると、きちんと答えが返ってくる。 ・ここというとき、子どもたちは真剣に聞こうとする。先生たちとの人間関係ができています。 ・ここに掲げた3つの重点は、小学校へ行ってもとても大切なものである。継続的に推し進めていっていただきたい。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおり広がり、付随して経験の幅も広がってきている。	B	A	
	2 人間関係調整力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	A	
	3 聞く態度・聞き取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	A	

教育目標具現に向けて育てたい七つの子ども像	1 自由遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の幼稚園は本当ににぎやかで、どの子どもみんな生き生きと遊んでいる。先生たちも本気で遊んでいる。また、子どもたちを本気で受けとめている。だから、子どもたちも先生が大好き。 ・鬼ごっこの鬼になって子どもたちを追いかける先生。みんなと手をつないで「花いちもんめ」に興じる先生。朝の園庭は、子どもと教師が溶け合っている。運動が苦手な子にも、気持ちを汲み取りながら誘いの手を差し伸べている。 ・先生たちの姿勢が十分反映されている。子どもたちはそれぞれの行事を心底楽しんでいる。 ・先生たちの誘い込みのうまさに感心する。 ・先生たちは、促し、見守り、結果を認めるという基本姿勢を貫いている。 ・年長児が年少児の着替えの面倒を見ている姿をよく見かける。 ・子どもは自分が置かれた環境の中で、環境の影響を大きく受けながら育っていく。同伴している親の巻き込みにもう一步力を注ぎ、園内に挨拶の声がこだまするような環境づくりを推し進めたい。(親も挨拶習慣化の推進者に。) ・先生たちは総じて聞き上手である。相槌を打ちながら子どもの声に耳を傾けている姿をよく見かける。 ・先生たちに安定感が感じられる。この安定感が子どもたちの安心感を助長しているように思う。 ・園外保育は子どもたちの経験と視野の拡大にたいへん有効である。多忙の中にあっても努力して出かける時間を生み出し、子どもたちにいろいろな事物や事象と出会わせたい。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなのはしゃぎと遊びを楽しんでいる。	A	A	
	2 集団遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりをもたせたりする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	A	
	3 園行事に楽しく参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	A	
	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手で行えるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A	A	
	5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	B	A	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇(経験・体験)の広がりをもとめ、積極的に園外保育に出かける。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がり、確かな歩みを見せている。	B	A	